

植 防 い し か わ

編集・発行

公益社団法人 石川県植物防疫協会

金沢市田中町か26-1

石川県農業共済会館内

TEL 076-239-1511

印刷 株式会社 共 栄

令和3（2021）年12月1日 発行

No. 158

はじめに

会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年度は昨年以上に新型コロナウイルス禍が大きく、集まって開催する会議や研修会などは軒並み不可能となりました。しかし、開催せざるを得ないものも少なからずあり、その対策としてオンラインでの開催が普及してきたようです。当協会でも、実験展示圃の検討会や植物防疫指導者研修会をオンラインで実施しました。食わず嫌いで昨年はオンライン会議に取り組みませんでしたでしたが、やってみて随分と便利なことがわかり、これからは可能な限り会議等はオンラインで実施したいと考えています。

植物防疫指導者研修会の実施

去る11月9日（火）に植物防疫指導者研修会をオンライン（Zoom）で開催しました。農研機構農業環境研究部門気候変動適応策研究領域の気象・作物モデルグループ長の中川博視さんを講師にお招きし、「気候変動への適応と栽培管理の効率化に貢献する栽培管理支援システム」についてご講演いただきました。ここで少し紹介させていただきます。

〈講演の概要〉

①日本の年平均気温は100年で約1.2℃上昇しています。

②農業における気候変動への適応には三つの観点

があります。

・「知る」…脆弱なプロセスの同定（水稻の高温障害は具体的にどの生育ステージで、どのような条件で、どのような現象が起こるのか）、これを実験的に解明し、リスク評価する

・「備える」…リスクに備える手段として、品種開発、栽培技術開発、農業インフラの整備、農業共済制度などの拡充・整備など

・「伝える」…ICT技術を使った情報の共有、早期警戒・栽培管理システムの構築

③農研機構では、アメダスデータなどを、標高などを考慮しつつ補間して約1km×1kmの単位で気象データを全国について作成し、「農研機構メッシュ農業気象データシステム」を構築しています。緯度、経度を指定するだけでデータを取得することができます。また、このシステムは、アメダスでは観測されない要素、例えば相対湿度（病原体感染の予測に利用）、積雪水量・降雪水量（積雪相当水量、ハウスなど農業施設の倒壊リスクの推定に利用）なども独自に推定しています。

④農研機構では、農研機構メッシュ農業気象データを利用した「栽培管理支援システム」を開発し、フェーンなどに対する早期警戒情報や水稻の出穂期などの発育予測（143品種に対応）、高温登熟障害対策としての追肥診断、紋枯病発生予測などの栽培管理支援情報を提供しています。システムの利用については、農研機構のHPから申し込み、利用目的審査を経てID、パスワードが付与されたのち、無償で利用できます。

⑤今後は、このシステムの直接利用だけでなく、

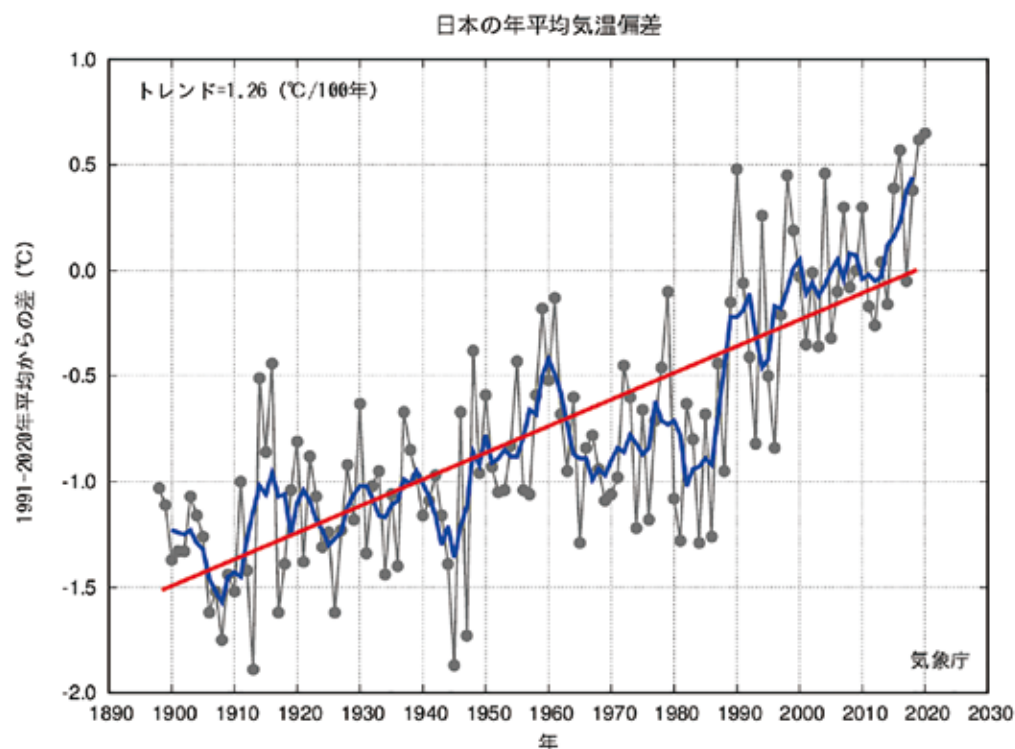
民間の各種サービス会社が提供するサービスの中に組み込まれるなど、社会実装されるシステムにしていきたいと考えています。

以上、概要でした。講演の後半に「栽培管理支援システム」のデモをしていただきました。ピンポイントで知りたい地区での水稻の特定の品種で、出穂期前の追肥の可否や収穫適期の診断などが簡単にで

き、使いやすいのではないかと思います。

この日の参加者は総勢 103 名でした。たくさんの方に参加いただきましてどうもありがとうございました。

（当日使ったパワーポイントの画像は、著作権の関係で掲載しておりませんことをご了承ください。）



（気象庁HPより）

令和3年度 水稻除草剤実験展示園成績検討会の概要

令和3年9月14日に標記の検討会をオンライン（Zoom）で開催しました。検討会は、石川県農業試験場中央普及支援センターの田中澄恵担当課長の司

会・進行で行われました。検討対象は、水稻除草剤が38剤（うち前年度未了1剤）でした。検討結果は表のとおりです。

作物名	農薬名	試験のねらい	実施機関	評価	依頼メーカー
移植 水稻	アットウジZジャンボ	一発処理剤としての技術実証	南加賀 奥能登	普及性あり	協友アグリ
	アットウZフロアブル	一発処理剤としての技術実証	石 川 県 央	普及性あり	協友アグリ
	アットウZ 1キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	南加賀 奥能登	普及性あり	協友アグリ
	ウィングラン 1キロ粒剤	田植同時一発処理剤としての技術実証	石川植防	2年目実証へ	北興化学
	ウルティモZ 1キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	県 央 中能登	普及性あり	三井化学アグロ

作物名	農薬名	試験のねらい	実施機関	評価	依頼メーカー
移植 水稻	カイリキZジャンボ	一発処理剤の技術実証	南加賀 珠 洲	普及性あり	北興化学
	カイリキZ 1キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	石 川 中能登	普及性あり	北興化学
	カウンスルエナジージャンボ／カウントダウンジャンボ	一発処理剤としての技術実証	石 川 中能登	普及性あり	バイエルクロップサイエンス
	カウンスルエナジーフロアブル／カウントダウンフロアブル	一発処理剤の水口施用としての技術実証	津 幡 中能登	普及性あり	バイエルクロップサイエンス
	ガツントZ 1キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	協友アグリ
	キラリ 1 キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	協友アグリ
	シンズイZ 1 キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	クミアイ化学
	ジェイソウル 1 キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	羽 咋 奥能登	普及性あり	三井化学アグロ
	ジャスタ 1 キロ粒剤／クサウェポン 1 キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証	三井化学アグロ
	ゼータジャガー 1 キロ粒剤	田植同時一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	住友化学
	ゼータプラス 1 キロ粒剤	田植同時一発処理剤としての技術実証	石 川 奥能登	普及性あり	住友化学
	ダンクショットフロアブル	一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	エス・ディー・エスバイオテック
	ツルギ250粒剤	一発処理剤としての技術実証、ドローン散布での適用性確認	羽 咋	普及性あり	S N 協 議 会 （日 本 農 薬、エス・ ディー・エスバ イオテック）
	デオーレ 1 キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	日産化学
	ビンワンジャンボ	一発処理剤としての技術実証	石 川 珠 洲	普及性あり	北興化学
	フルスコアZジャンボ	一発処理剤としての技術実証	羽 咋 珠 洲	再検討	石原バイオサイ エンス
	フルスコアZ 1 キロ粒剤	一発処理剤としての技術実証	南加賀 県 央	普及性あり	石原バイオサイ エンス
	プライオリティジャンボ	一発処理剤としての技術実証	石 川 奥能登	普及性あり	クミアイ化学
	ベッカクジャンボ	一発処理剤としての技術実証	加 賀 津 幡	普及性あり	クミアイ化学
	アレイルSC	中後期剤としての技術実証	南加賀 奥能登	普及性あり	日産化学
	ウィードコア 1 キロ粒剤	中後期剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	ダウ・アグロサ イエンス日本 北興化学

作物名	農薬名	試験のねらい	実施機関	評価	依頼メーカー
移植 水稻	シアゲMF 1 キロ粒剤	中後期剤としての技術実証	加 賀 津 幡	普及性あり	トドメMF 普及会 (科研製薬、三井 化学アグロ)
	ツイゲキ豆つぶ 250	中後期剤としての技術実証	石 川 県 央	普及性あり	クミアイ化学
	トドメバスMF 液剤	中後期剤としての技術実証	津 幡 奥能登	普及性あり	トドメMF 普及会 (科研製薬、三井 化学アグロ)
	バイスコープ 1 キロ粒剤 ／ルナクロス 1 キロ粒剤	中後期剤としての技術実証	石 川 羽 昨	普及性あり	三井化学アグロ 北興化学
	ロイアント乳剤	中後期剤としての技術実証	石川植防	2 年 目 実 証 へ	ダウ・アグロサ イエンス日本 クミアイ化学
直播 水稻	カウシルエナジー 1 キ ロ粒剤／カウントダウン 1 キロ粒剤	湛水直播栽培での技術実証	南加賀 県 央	普及性あり	バイエルクロッ プサイエンス
	ジェイソウル 1 キロ粒剤	直播栽培での技術実証	石 川 中能登	普及性あり	三井化学アグロ
	スタム乳剤 35	乾田直播栽培の入水 前の茎葉処理剤とし ての技術実証	南加賀 珠 洲	普及性あり	日産化学
	マスラオ 1 キロ粒剤	湛水直播栽培の播種 同時処理での技術実証	加 賀 石 川	普及性あり	住友化学
	レプラスジャンボ	直播栽培での技術実証	中能登 珠 洲	普及性あり	日産化学
	ロイアント乳剤	直播栽培での技術実証	南加賀 県 央	普及性あり	ダウ・アグロサ イエンス日本 クミアイ化学
刈跡 水稻	カソロン粒剤 4.5 (前年度未了分)	水稻刈取後10～20日 後処理の一年生雑草 に対する効果確認、 翌年水稻への影響確認	石 川 中能登	普及性あり	アグロカネショウ

注) 実施機関の表記は次のとおり
 南加賀、石川、県央、中能登、奥能登：農林総合事務所
 加賀、津幡、羽昨、珠洲：農林事務所
 石川植防：石川県植物防疫協会

編 集 後 記

森林火災や大干ばつなど世界規模で起こっているいろいろな自然災害は、長年の化石燃料を使った生産活動が原因で温暖化が進み、引き起こされた異常気象です。近年日本でも、線状降水帯による大雨、洪水や夏の異常高温など温暖化による異常気象が起きています。

温暖化対策に早急に取り組まなければ大変なことになる、ということに今ようやく私たちは気付かされたのでしょうか。2030 年を目標に多くの国がガソリン自動車のEV化の具体的目標を示しています。私たちも生活の中で、ごみの分別化、プラスチックごみのリサイクル化など小さな取り組みではありますが、しっかりと実行していかなければなりません。その取り組みがひいては農業生産の安定化につながるのではないのでしょうか。